一　つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ウィリアム、今日はおまえに、大切な話があるんだ」
「何ですか、お父さん」
「まあ、そこにすわりなさい」
お父さんの真剣なようすに、ウィリアムは緊張して、食卓の前の椅子にすわりました。
「もうすぐ、幼年学校も卒業だ。おまえは自分の将来のことを、どう考えているんだ」
「どうって、まだ先のことなので、何も考えていません」
「おまえは夜になると外に飛び出していって、星ばかり見ているというじゃないか。星を見てどうするんだ。占い師にでもなるつもりか」
「いいえ。ぼくはただ、星を見るのが好きなのです」
「好きなことをやっているだけでは、大人にはなれないんだぞ」
お父さんは、少しきびしい口調になって言いました。
「ウィリアム。おまえ、大人になったら、どんな仕事をするつもりだ」
「ぼくは、①お父さんのようになりたいと思います」
とウィリアムは答えました。
その答えに、嘘はありません。ウィリアムは、お父さんが好きでした。星を見ることの次には、音楽が好きでした。
「おまえも、*軍楽隊に入るつもりか」
ウィリアムは、力強くうなずきました。
②お父さんは、微笑を浮かべました。そして、立ち上がると、戸棚の中から、楽器を出してきました。細長い木管のオーボエという楽器でした。
「これを、おまえにやろう」
楽器を差し出しながら、お父さんは言いました。
ウィリアムは喜んで受け取りました。でも、少しだけ、③意外な感じがしたことも事実です。ブラスバンドの花形は何といっても金管楽器です。トランペットが吹くファンファーレは、ウィリアムにとっては、あこがれの的です。一方、ウィリアムは横笛のピッコロが得意でしたから、同じ横笛のフルートを吹きたいと思っていました。でも、お父さんが差し出したのは、トランペットでもフルートでもなく、また木管楽器の中心のクラリネットでもなく、いくぶん地味な楽器の、オーボエでした。
「クラリネットは*リードが一枚だが、オーボエはリードが二枚あって、吹くのがとてもむずかしい」
とお父さんは言いました。

「吹くのがむずかしいから、オーボエ奏者は不足している。これから三年間、毎日練習しろ。十五歳になったら、軍隊に入れる。その時に、オーボエが吹ければ、いきなり軍楽隊の正式メンバーになれる」
「わかりました。毎日練習します」
その日から、オーボエの練習が始まりました。

（三田誠広「キャロラインの星」による）

＊軍楽隊＝兵士の気持ちをふるいたたせるための音楽を演奏する部隊。　＊リード＝息を吹きこんで鳴らす楽器の、音が出るしかけとなっている部分。

(1)　――線①「お父さんのようになりたい」とありますが、「おとうさんのようになる」とは、どうすることですか。次の□にあてはまる六字の言葉を文章中から書きぬきなさい。

□（　　）こと

(2)　――線②「お父さんは、微笑を浮かべました」とありますが、そのときのお父さんの気持ちとして最もよいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　息子が占い師になると言わなかったので、ほっとした。
イ　息子が自分と同じ仕事をしたいと言ってくれたので、うれしかった。
ウ　息子が実現しそうもない夢を話したので、子どもらしくてかわいいと思った。
エ　息子がやりたい仕事をあきらめてまで、自分を喜ばせようとしているのがいじらしかった。

□（　　）

(3)　――線③「意外な感じがした」とありますが、それはなぜですか。次の□にあてはまる言葉を文章中から書きぬきなさい。

お父さんが差し出した楽器が、ブラスバンドの花形の□でも、ウィリアムが吹きたいと思っていた□でも、木管楽器の中心になるクラリネットでもなくて、オーボエだったから。

(4)　お父さんがウィリアムにオーボエを選んでやったのは、なぜですか。文章中の言葉を用いて四十字以内で書きなさい。

□（　　）

(5)　ウィリアムは、どんな子どもですか。最もよいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　一度言い出したら、人の言うことを聞かない子ども。
イ　父親の顔色ばかりうかがっている自主性のない子ども。
ウ　父親のために嫌いなことにも努力するやさしい子ども。
エ　父親を尊敬し、アドバイスを聞く素直な子ども。

□（　　）

二　――線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字にしなさい。

1．委員会で話し合う。
2．きょうりゅうの化石。
3．手始めにやってみる。
4．台所でりょうりする。
5．電車がとう着しました。
6．毛皮のコートをきた女の人。
7．海に面したへや。
8．太陽がしずむ。
9．明暗がはっきり分かれる。
10．生死のさかいをさまよう。
11．植物を大切にする。
12．電柱のかげにかくれる。
13．トオくの街にひっこす。
14．りっぱなツノをもったシカ。
15．アシモトに気をつける。
16．十二ギョウめからよみなさい。
17．カタチのよいきゅうり。
18．にわで野さいをツクる。
19．ジブンの力をためす。
20．のこりスクない夏休み。
21．ショクゼンに手をあらう。
22．ナガいひもでゆわえつける。
23．ヒガシの空に月が出た。
24．かわいいコウマがかける。
25．小麦こをモチいる。

三　つぎのそれぞれの文の主語と述語を一つずつえらび、記号で書きなさい。

①　ア　わたしは　イ　毎日　ウ　ピアノを　エ　れんしゅうする。

主語（　　）　述語（　　）

②　ア　この　イ　たてものは　ウ　とても　エ　古い。

主語（　　）　述語（　　）